

彙 報

○第九回講演會 昭和17年10月10日(土)、午後1時半より東京帝國大學法文經第三十七番教室において開催。小倉副會長司會。演題及び講師は次のやうであつた。

動詞のアスペクトについて

井 桁 貞 敏

馬來語の發達

朝 倉 純 幸

會集者約50名。

○研究室及びその周圍の動向 ハンガリーに交換學生として留學中の徳永康元氏は昭和16年春トルコ・シベリヤ經由で御歸朝。現在、文部省民族研究所に御勤務。○○に御出征中の佐藤誠氏は昭和17年1月一年半ぶりに御歸還。ながらく本誌の編輯に盡力された高津春繁氏は昭和16年10月より東京帝國大學文學部講師に就任されたので、本誌の編輯・事務は生田早苗氏と、同じく10月より新しく研究室の副手に囑託された柴田武とが責任をもつことになつたが、なほ高津氏の御骨折を仰いでゐる。更に生田早苗氏は近く文部省民族研究所へ移られることになつてゐる。